

天塩川魚類生息環境保全に関する専門家会議 漁業者との意見交換 【概要メモ】

年月日 : 平成 21 年 3 月 16 日 (月)

北るもい漁業協同組合 : 漁業組合員 7 名

天塩町 : 浅田町長

天塩川魚類専門家会議委員 : 粟倉委員、石川委員、妹尾委員、眞山委員、安田委員、山田委員

< 石川委員からの意見聴取のポイント >

- ・ 天塩川上流流域に対する要望
(治山、森林環境保全、土砂流出、流木対策等)
- ・ 天塩川本支流での河川工事に対する要望
- ・ 天塩川河口部周辺でのサクラマス漁の変遷
- ・ 天塩川本支流におけるシジミ漁の推移
(河川行政に望むもの)

石川委員 魚類専門家会議では、サンルダムを含む天塩川全体の議論を行っている。今日の意見交換の結果は、次回の専門家会議で紹介を行うので承知願いたい。4 点のポイントを中心に意見交換を行いたい。

漁業組合 流域委員会では今回のように聞いてもらう場面がなかったのか。

石川委員 今ここにいる委員は流域委員会には参加していない。途中から北るもい漁協の方に委員に入っていた。流域委員会は魚類だけではなく、流域全般の話なので、魚類についてはあまり議論されていなかったのかもしれない。

その分、魚類専門家会議は、水産関係の委員もあり、魚類保全についての話を進めてきた。地元の漁業者の方の意見も聞かなければならないと思い、今回の場を設けた。

漁業組合 川岸に滞留している流木等が洪水で流れてきて、サケ漁の定置網にひっかかったり、濁水が河口の漁場に流れ込んだりしている。

漁業組合 流域委員会では地域の代表だけで、地元の意見がほとんどであり、河口部の話は出なく、今回のように意見を聞く場があってもよかったのではないかと。

漁業組合 下流の天塩町の話聞いて、その話に関係する自治体もかかわってほしい。

漁業組合 過去に流域委員会を行ってにおいて、今頃やっと漁業者と話をするというのは遅すぎる。天塩川最終処理場は、この河口域である。ダムを作っても大して影響がないとは思いますが、河口域の人間が被害を受けているのが現状である。

安田委員 現在の議論で足りない点は、具体的な対応策だと思う。例えば上流側からのゴミについては、川幅を利用して、滞留させて撤去することなどが考えられる。

漁業組合 議論している間にも、ゴミの影響を受けている。漁業は突発的に対処する職業である。

安田委員 大掛かりなものは議論に時間がかかるが、例えば既存の樋門などを利用してゴミの捕獲ができないのかなど、そのような対応はできると思う。

魚道については、全道で正常に機能していない魚道がたくさんある。課題に対応できる人間がいなのが問題であったが、やっと対応が始まった。今までの議論から一歩でも二歩でも改善させていくのが専門家会議である。

漁業組合 他の漁協と違い、ここには天塩川という大きな河川がある。過去、天塩川の上流端に岩尾内ダムができた。その後、剣淵川に西岡ダムの計画も出てきた。そこで始めて漁協に話が来たが、上流のことを考えて渋々了解した。これまで河川のショートカット等、治水に協力してきたが、ここ十数年でシジミの漁獲量が減少したり、色々と影響がでてきた。河川工事の話はあってもゴミ対策等の話は一度もない。

漁業組合 昔は洪水があると10日間ぐらいゆっくり水が出ていたが、今は3日間程度ですぐに出てくる。ショートカットの影響である。

石川委員 今ようやく工事实施について、漁協との話し合いが持たれるようになった。そのように理解してほしい。

漁業組合 シジミの漁獲量が小さくなった分、海での漁へのウェイトが大きくなっている。網にゴミが引っかかり作業効率が落ちており、漁への影響のリスクが大きく、悪循環をきたしている。

漁業組合 ビートの苗を入れているビニールまで網にかかる。

妹尾委員 北海道の川は排水路と化している。天塩川でも水に自由度がなく、ゴミや濁水が下流に流れてしまう。川に自由度を与える川づくりは可能である。

漁業組合 河川工事をやってきて、今の状況になってきている。過去のことは知らないでは困る。

漁業組合 昔は河川水を飲料用にできた。現在、流木が船に衝突するなど、流木による漁船被害は留萌管内でも天塩が一番多い。下流では流木による事故を減らすような対策をしているが、上流の住民は意識していない。今回の様に天塩に来て、議論してもらえることは良い。

石川委員 流域対策としては、林野関係での勉強会も始めた。具体的な対策にも着手し始めていると思う。

漁業組合 生活するために、シジミ漁からサケ漁へ漁業基盤を変えることもあるが、今度は大雨で流木が流れてきて、サケ漁の定置網が被害を受けることとなった。

眞山委員 天塩川河口の増殖用サケ親魚捕獲は網ウライなので、流木被害を受けやすい。昔は中流域でウライを実施していたが、ショートカット化されたことにより流況が変化し、下流側で行うようになった。

漁業組合 林野では、治山えん堤が土砂で一つ埋まれば、また一つ作っている。農業も、頭首工の魚道が満足に機能していなかったり、施設を十分に維持管理していないと思う。

山田委員 天塩川は非常に長い川であり、全体で 300km 近くもあり、上流側と下流側で痛みを分かち合うことが難しい。例えば農業従事者は、自分が何をすれば良いかなど、意見交換することがなかった。最近ようやく流域全体での話が始まる動きになった。そういう動きになり始めたが、公共投資がカットされ、開発局は苦しい状況である。多摩川では、川に係わっている団体が 150 もある。東京都が多摩川センターをつくり、そこで各団体が独自に調整しているが、天塩川では、やはり開発局が中心となり調整する必要がある。開発局と道などで、例えば上流側からのゴミ発生などを点検する仕組みを作る必要がある。

漁業組合 川の管理は、道路ほどまめに実施されていない。

漁業組合 東京の川で魚が遡るようになったとは聞く。

山田委員 釣りの団体と自然保護団体がぶつかったり、カヌーの団体と他の団体がぶつかることもある。警察は制度的に河川に入って仲裁できないので、無法地帯になる可能性がある。

漁業組合 大阪では市民の意識が高まって、ボランティアの人達が上流部から点検して、ゴミ拾いなどをやり始めたと聞いている。

自治体ばかり集まっても予算の話になって進まない。釧路湿原では、高校生が水質浄化に携わった行動を始めている。

山田委員 流域全体の人が上流のこと、下流のことを考えて行動することを、今回の中間とりまとめに盛り込みたい。

漁業組合 毎年、河口域に住む小学生を川岸に集めてシジミの勉強会をしている。

山田委員 上流側の子供たちを下流に連れてきて勉強してもらった方が良い。

妹尾委員 千歳川でも市民の勉強会をやっている。サケには行政区域は関係ない。恵庭市街地の河川ではサケの産卵床があり、市が河川へのパリアフリーを実施した結果、ゴミの収集を住民がやっている。サケが遡上する時期に、千歳市で小中学生がゴミ収集をしているが、下流の石狩や江別からも応援がくるようになった。残念ながら教育者がなかなか動いてくれないという問題もある。

石川委員 こういった話を提言に盛り込み、また意見交換できる機会を持てればと思う。

漁業組合 4千、5千もサクラマスが上っている天塩川を維持できるのか、土砂で詰まる魚道などの改善を考えてもらいたい。生態系を壊しておいて、今頃山に木を植えるなど後手である。工事後の影響もきちんと調査し改善しないとダメである。

漁業組合 ゴミの有料化が始まってから、漁港で流木やゴミを見つけた場合は、第一発見者が片付けるルールになっていておかしい。

山田委員 千葉の山は、東京のゴミ捨て場になっている。民有地だと行政は手を出せないのが現状である。

漁業組合 サクラマスについては、ヤマメまで育てて放流しているが、手間の割に成果になっていない。やはり自然界の再生産が重要である。日本海のサクラマスはオホーツク海に比べて型が大きく、貴重な資源である。

山田委員 (意見交換後、国内外の水問題解決に向けて行動する「チーム水・日本」の取り組みを紹介)

(この後、ゴミが溜まっている海岸へ移動し、現地での意見交換)

(以上)